

よろこぶ

「ほ」と「る」を
花火は
きれいな

空のついでに
ひろがった
しんが

ひろがった

花火は國傳るんやれど
まきには改花の心魂を

「よ」か「た」
これでは何とも行けぬ
「たすけ」

さ→きから
さかんに花火の跡を
心でうた

た
り

ほいゆえのへんが
戦初めの

にき加わす
お年寄り二人
責任者といふが

するで「マ」
「サ」の

か「り」心配して
いふのでその
感ずは大きい

この事をだいた
い言いたく
でもきり

れの人々の
その人はい

さ→も「一」
の花火

「路」の社長
すくま

お水い通り
「十」で
「一」

「せ」
「た」
「た」

「た」
「た」
「た」

これけえ
「た」
「た」

